

## 【用語解説】

### あ行

- ・一時滞在施設  
災害時に帰宅が可能になるまで待機する場所がない帰宅困難者を一時的に受け入れる施設のことをいいます。
- ・延命化措置  
河川管理施設の維持管理・更新における延命化措置とは、予防保全的な管理及び機器更新等により、施設の長寿命化に資する行為のことをいいます。
- ・Lアラート  
地方公共団体が発する災害関連情報等を集約し、テレビ、ラジオ、携帯電話、インターネット等の多様なメディアを通じて、一括配信するシステムです。

### か行

- ・外環道（東京外かく環状道路）  
都心から半径約15キロメートルの地域を連絡する全長約85キロメートルで、県内区間（松戸市～市川市）延長12.1キロメートルの環状道路です。
- ・感震ブレーカー  
地震の大きな揺れを感知すると自動的にブレーカーを落とす等して電気を遮断し、停電が復旧した時等に発生する電気火災を防止するための装置です。
- ・緊急輸送道路  
大規模な地震が起きた場合における避難・救助、物資の供給、諸施設の復旧など広範な応急対策活動を広域的に実施するために指定する道路のことです。
- ・圏央道（首都圏中央連絡自動車道）  
都心から半径約40キロメートル～60キロメートルの地域を連絡する全長約300キロメートル、県内区間（茨城県境〈神崎町〉～木更津市）延長約95キロメートルの環状道路です。

- ・高規格幹線道路

自動車が高速で走れる構造で造られた自動車専用道路のことを指し、「高速自動車国道」及び「一般国道の自動車専用道路」のことです。

## さ行

- ・災害時帰宅支援ステーション

災害時、救急・救助活動が落ち着いた後に帰宅困難者の徒歩帰宅を支援するため、可能な範囲で水道水、トイレ、地図等による道路情報、ラジオ等で知り得た通行可能な道路に関する情報などを提供する施設のことをいいます。

- ・サプライチェーン

製造業において、原材料調達・生産管理・物流・販売までを一つの連続したシステムとして捉えたときの名称のことです。

- ・冗長性

余分な部分が付加されていること、また、それにより機能の安定化が図られていることをいいます。特にコンピューターネットワークで、情報を伝達する際に、情報が必要最小限よりも数多く表現されることをいいます。これにより安定的に情報伝達を行うことができます。

- ・情報化施工

建設事業の調査、設計、施工、監督・検査、維持管理という建設生産プロセスのうち「施工」に注目して、ICT（情報通信技術）の活用により各プロセスから得られる電子情報を活用して高効率・高精度な施工を実現し、さらに施工で得られる電子情報を他のプロセスに活用することによって、建設生産プロセス全体における生産性の向上や品質の確保を図ることを目的としたシステムのことです。

- ・自立・分散型エネルギー

地域において、再生可能エネルギー等を最大限活用し、災害時等に大規模電源等からの供給に困難が生じた場合でも、自立的に一定のエネルギー供給を確保できるエネルギーシステムのことです。

## た行

- ・大規模盛土造成地

盛土造成地のうち以下のいずれかの要件を満たすものです。

- ①盛土の面積が 3,000 平方メートル以上（谷埋め型大規模盛土造成地）
- ②盛土をする前の地盤面の水平面に対する角度が 20 度以上で、かつ、盛土の高さが 5 メートル以上（腹付け型大規模盛土造成地）

- ・地籍調査

国土調査法に基づき、市町村が主体となって、一筆ごとの土地の所有者、地番、地目の調査並びに境界及び地籍に関する測量を行い、その結果を地図及び簿冊に作成するものです。

- ・津波避難タワー

津波の浸水が想定される地域内において、地震発生から津波到達までの時間的猶予や地理的条件等の理由により、近くの安全な高台等への避難が困難な場合に、緊急的に一時避難をするために活用する施設です。

- ・TEC-FORCE

(**T**echnical **E**mergency **C**ontrol **F**ORCE)

国の緊急災害対策派遣隊のことです。大規模な自然災害が発生または発生する恐れが生じた場合、被災自治体などを支援するため、被災地へ出向き被災状況の調査や応急対策に対する技術的な助言等を行います。

- ・デルタ

河川の運搬する土砂が河口付近に堆積してできた地形のことです。三角州とも呼ばれます。

- ・道路啓開

緊急車両等の通行のため、早急に最低限の瓦礫を処理し、簡易な段差修正により救援ルートを開けることです。

- ・特定建築物

建築物の耐震改修の促進に関する法律第 14 条第一号に掲げる学校、体育館、

劇場、観覧場、集会場、展示場、百貨店、事務所、老人ホーム等の多数の者が利用する建築物と同条第二号に掲げる危険物の貯蔵場及び処理場の用途に供する建築物をいいます。

## な行

- ・内水

河川や海などの公共の水域等に雨水を排水できないことによる出水のことです。法律（水防法）上の用語としては「雨水出水」といいます。

- ・農業水利施設

農地に農業用水を供給する用水施設（ダム、ため池、揚水機場、用水路など）及び農地から不要な水を河川に流す排水施設（排水機場、排水路など）のことです。

## は行

- ・被災建築物応急危険度判定

大地震により、被災した建築物を調査し、人命にかかわる二次的災害を防止するために、その後に発生する余震などによる倒壊の危険性や外壁・窓ガラスの落下、付属設備の転倒などの危険性を判定することをいいます。判定結果は、建築物の見やすい場所に表示され、居住者はもとより付近を通行する歩行者などに対してもその建築物の危険性について情報提供します。

- ・被災建築物応急危険度判定士

千葉県が開催する「応急危険度判定士認定講習会」を受講し、知事の認定を受けて応急危険度判定を行う者をいいます。

- ・被災宅地危険度判定

大地震等により、宅地が大規模かつ広範囲に被災した場合に、二次災害を軽減、防止し住民の安全の確保を図るため、現地踏査により、宅地の被災状況を調査し、変状項目ごとの配点から危険度を判定することをいいます。

判定結果は、見えやすい場所に表示し、当該宅地の使用者だけでなく、付近を通行する歩行者にも安全であるか否かを識別できるようにします。

- ・被災宅地危険度判定士

一定の資格・経験を有する土木又は建築技術者で、判定士養成講習会を受講し、知事の登録を受けた者をいいます。

- ・BCM

事業継続計画を策定（構築）し継続的に運用していく活動や管理の仕組みのことです。（Business Continuity Management）

- ・BCP

BCPとは業務継続計画（Business Continuity Plan）であり、災害発生時に、利用できる資源（ヒト、モノ、情報及びライフライン等）に制約がある状況下において、応急対策業務、継続性の高い通常業務及び優先度の高い復旧業務を特定するとともに、災害時優先業務の業務継続に必要な資源の確保・配分や、そのための手続きの簡素化、指揮命令系統の明確化等について必要な措置を講じることにより、大規模な地震災害時にあっても、適切な業務執行を行うことを目的とした計画です。

- ・避難行動要支援者

高齢者、障害者、乳幼児等の災害時に特に配慮を要する者（要配慮者）のうち、災害発生時の避難等に特に支援を要する者をいいます。平成25年6月の災害対策基本法の一部改正により定義され、市町村長に避難行動要支援者名簿の作成が義務付けられました。

- ・福祉避難所

一般の指定避難所での避難生活が困難な要配慮者を受け入れ、適切な支援をしながら保護する目的で市町村があらかじめ指定しておく施設をいいます。

## や行

- ・ 輸送モード

輸送機関、または輸送手段のことをいいます。

## ら行

- ・ 流域貯留浸透施設

学校のグラウンドを活用した雨水貯留施設や、雨水浸透枳など、流域内の保水・遊水機能を確保するための施設のことです。